

杉原前看護部長さんの叙勲を祝う

国病久原会 医師部会代表幹事 古賀満明

杉原三千代前看護部長さん、令和になって最初の瑞宝双光章の叙勲おめでとうございます。国病久原会の会員を代表してお祝い申し上げます。

杉原さんは、長崎医療センターには2回、計9年の勤務経験があります。勤務が重ならない方もおられますので、まずは経歴を簡単に紹介したいと思います。

杉原さんは、昭和54年国立嬉野病院(現、NHO 嬉野医療センター)附属看護学校を卒業後、同院で看護師としての第一歩をスタートする。昭和63年国立療養所福岡東病院に看護部長として昇任。平成9年国立長崎中央病院(現、NHO 長崎医療センター)へ配置換えとなる。中病棟配属となり、病棟医長をしていた私との、最初の出会いとなる。5年間共に病棟運営に携わったのち、平成14年国立病院機構で新たに立ち上がった医療安全管理担当者(長崎医療では第1号)に任じられる。そのわずか3か月後、国立療養所東佐賀病院に副看護部長として昇任する。国立都城病院、NHO 熊本医療センターで経験を積み、平成21年NHO 嬉野医療センターの看護部長に昇任となる。私は平成15年から同院へ赴任しており、院長と看護部長としての再会であった。平成26年2回目の勤務となるNHO 長崎医療センターへ異動となり、平成30年定年退職を迎えた。

看護部長昇任施設である国立長崎中央病院は、すでに敷地内での建て替えが決定し、5年後の全館完成に向け躍動していた時期である。看護部長昇任施設であるNHO 嬉野医療センターは、新幹線嬉野駅(仮称)の隣接地への新築移転構想が持ち上がり、国立病院機構では平成最後の全館建て替えが決定した時期であり、令和元年6月オープンとなった。更に、嬉野の前任地であるNHO 熊本医療センターでも、熊本城内での新築移転を副看護部長として経験している。実に強運の持ち主である。

廣田会長からは、嬉野時代のエピソードを紹介するよう依頼をされたのですが、仕事上はあまり記憶に残っていません。記憶に残らないほど、看護部門の管理・運営は完ぺきだったからだと思います。唯一記憶に残っていることといえば、歓迎会の席だったと思います。「自分は(杉原は)年度末賞与の支給制度が始まって以来、ずっと貰い続けているので、嬉野でも継続してくださいね」と、微笑みながらの強い要望(?)でした。私にはプレッシャーであるとともに、「看護部も病院経営には全面的に協力しますよ」という、メッセージに受けとったことを覚えています。それ以来、医療面と経営面からなる国立病院機構での評価は“AA”を続け、年度末賞与も毎年満額支給できたと記憶しています。

杉原さん自身、看護管理に関しては向上心が強く、嬉野時代の平成23年にはいち

早く認定看護管理認定資格を取得しました。現場の問題点を理解しつつも、病院の問題点の克服を優先したマネジメントをしていたように思います。スタッフだけでなく、上層幹部に対しても物申す厳しい看護部長でした。それだけに、心の安らぎを必要としていたのでしょう。看護部長室には、アルカイク・スマイルの絵が飾ってあったことを、皆さん知っていますか？